

「ピッコロ・バイオリンって？」 東京FM

ミュージック・バード

「トランス ワールド
ミュージック ウェイズ」

2010年
6月13、14日
放送

ゲスト：川島佳子 (ピッコロ・バイオリン研究会代表)

グレゴリー・セドフ 世界で唯一人のピッコロ・バイオリン奏者

1952年生まれ。ヴァイオリニストであった父より5歳の頃からバイオリンを習う。カルコフ音楽院及びサンクトペテルブルグ国立音楽院修了。

1995年、アメリカの著名なバイオリン製作者C. M. ハッチンスによるピッコロ・バイオリンに出会い、以来、この新しいアイデア、サウンドの楽器に魅せられ、世界初のピッコロ・バイオリン奏者として活躍する。

サンクト・ペテルブルグ・ハッチンス・オクテットのソリストとして、1998年にリリースされた**ヴィヴァルディの協奏曲<ごしきひわ>**は、この年の**グラミー賞セミアイナル**に選ばれた。このユニークな楽器のために多くの作品の編曲を行い、中でもバッハの全無伴奏チェロ組曲の編曲はサンクト・ペテルブルグで出版及びCD録音されている。レパートリーも正統クラシックは勿論のこと、ジャズ、タンゴ、日本の曲等多岐に亘っている。

これまでにレニングラード・コンサート・オーケストラの首奏者、マリンスキー歌劇場オーケストラメンバー等を歴任。1989年よりサンクトペテルブルグ・フィルハーモニー交響楽団第一バイオリン奏者。1994年よりサンクトペテルブルグ国立音楽院室内音楽科で教鞭をとる。国際コンクール出場者を指導する特別優秀教師のディプロマをもつ。2010年、皇后陛下美智子さまもご鑑賞され、2011年東京国際大学特任教授に就任。

「彼の活動は、世界の音楽芸術分野に多大な貢献をもたらすだろう。」

(ユーリ・テミルカノフ、サンクトペテルブルグフィル首席指揮者)

「グレゴリー・セドフの才能とエネルギーがこのチャーミングな楽器のコンサートライブを可能にした。」(マリス・ヤンソンス、コンセルトヘボール管弦楽団首席指揮者)

「彼は最も小さなバイオリンを演奏する偉大なアーティストだ」

(M・ロストロポーヴィッチ)

ピッコロ・バイオリン研究会 <http://piccoloviolin.cocolog-nifty.com/>